



## ●●●●●●●●●● S-KYT研修を実施して ●●●●●●●●●●

静岡県浜松市消防団（天竜区支団）

### 1 はじめに

浜松市は、平成17年7月1日、3市8町1村による合併により、新「浜松市」となり、平成19年4月1日に政令指定都市へ移行しました。

現在は人口約82万人となり、静岡県の西部に位置し、東京、大阪の2大都市のほぼ中間にあり、市の南北を天竜川が縦断し遠州灘へと注いでおります。市域の面積は、約1,558km<sup>2</sup>で全国2番目の面積を擁し、北は長野県境と接する天竜川中流域の中山間地が広がり、南は天竜川下流域に扇状に広がる平野部、西は愛知県境と接する浜名湖岸の丘陵地から形成され、標高は海拔0mから2,298mと起伏に富んだ地形となっております。

気候の主な特徴としては、年間を通じて温和であり、特に冬季も温暖で、国内でも有数の日照時間の長い所であり、北部の中山間地域を除いてほとんど積雪はありません。

これら地域特性を生かした、天竜区の「天竜茶」、北区の「三ヶ日ミカン」、西区の「浜名湖うなぎ」など昔ながらの特産品に加え、最近ではB級グルメとして「浜松餃子」が人気を博しております。

### 2 浜松市消防団の沿革

浜松市消防団は、平成17年7月の3市8町1村による合併により12の消防団からなる総団員数3千人を超える組織となり、合併に伴う激変緩和のため、平成19年3月までは、12人の消防団長のもと従前のままに活動してきました。

しかしながらこうした状況の中で、合併時の地域尊重の原則を踏まえつつ、指揮命令系統の統一、団員処遇の統一の必要性から、一つの消防団として再編を行い、政令市移行時の平成19年4月から1団12支団体制へ、平成21年4月には区にひとつの支団を置く1団7区支団体制へと移行し、1人の消防団長のもと名実ともに一つの消防団となり、1団、7区支団、22方面隊、82分団、定数3,265人で組織し、市民の安心・安全のため、日夜その活動に当たっております。

### 3 S-KYT研修を実施した経緯

浜松市消防団では、毎年5月に支部主催で行われる、幹部講習会、訓練技術講習会、新入団員講習会にそれぞれ団員を参加させ、その中でその職務に応じた安全管理、事故防止について学んでおります。

また、各区支団においても、日頃から安全管

理研修を機会あるごとに行ってきたところではありますが、本市消防団天竜区支団において、平成23年6月に操法訓練で2件、火災現場活動で1件、水利保全活動で1件の公務災害が発生しました。

この相次ぐ事故の発生に伴い、区支団幹部は「早急に更なる安全管理対策を講じなくてはならない」という危機感を共通認識として持つことになりその方法を模索していました。そんなとき、5月に支部主催の幹部講習会でS-KYT研修を受講した区支団幹部から「S-KYT研修は公務災害防止のために大変有意義であり、より多くの団員の受講が必要ではないか」という提案がなされ、団本部にその提案が上程され実施する運びとなりました。

#### 4 S-KYT研修を実施して

平成23年7月24日（日）午前9時から、天竜区支団正副分団長階級以上の団員を対象とし

て、参加者48人を6班に分けて行う2時間の「S-KYT研修」を開催しました。

また、これと併せて、実務的な研修を行う「庶務講習」と、非常勤公務員としての倫理感の醸成及び普及啓発を目的とした「倫理研修」を同日に開催しました。

S-KYT研修については、5月の支部主催の幹部講習会にてS-KYT研修を受けた団員が参加していたこともあって、冒頭の自己紹介からそれらの団員が初めて研修を受ける団員をリードする形で始まりました。

同じ区支団内の団員とは言え、普段は各方面隊、各分団での活動が主であり、お互い顔も名前も知らない団員が多かったため、最初はぎこちない雰囲気もあったのですが、ベテランの元氣な講師の方々の丁寧な説明の下、大きく声を張り上げ唱和して行う指差し動作、タッチ&コール等を通じて安全管理・事故防止について啓蒙させられると共に団員間の親睦も深めること



研修開始



指差し唱和

ができた、非常に有意義な研修であったと考えております。

研修後の感想として、多くの団員から「自分の所属する方面隊・分団にて同様の研修を実施したい」という積極的な意見が出ており、今後も継続して安全管理、事故防止についての意識向上を図る上で大変有用な機会であったと考えております。

## 5 今後の取り組みについて

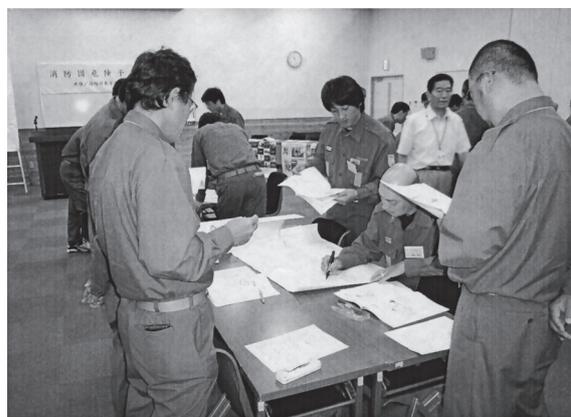
消防団活動というものは、危険と隣り合せて

あることが多く、場合によっては非常に重大な事故に繋がりがねません。ひとたび事故に遭えばその後の消防団活動のみならず、本業や家族にもその影響を及ぼします。

これらの事故を防止するためにも、「S-KYT研修」を団内の定期訓練等に盛り込み、一人一人の安全管理意識を高めるとともに、「公務災害ゼロ」を目指して消防団活動に励みたいと思います。



タッチアンドコール



みんなで危険を考える